

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和3年度8月号

#### ○ 概要

- (1) 令和3年8月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,236億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,665円（伸び率▲0.5%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,634億円（伸び率+8.8%）薬剤料が4,589億円（伸び率+3.3%）、薬剤料のうち、後発医薬品が915億円（伸び率+2.1%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,693円（伸び率▲1.9%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.76種類（伸び率+1.7%）、28.1日（伸び率▲1.0%）、73円（伸び率▲2.6%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,673億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+114億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の667億円（伸び幅+45億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+59億円（総額430億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,673億円 (+114億円)	39 その他の代謝性 医薬品(667億円)	21 循環器官用薬 (615億円)	11 中枢神経系用薬 (575億円)
0歳以上 5歳未満	17.8億円 (+3.1億円)	44 アレルギー用薬 (6.3億円)	22 呼吸器官用薬 (3.0億円)	61 抗生物質製剤 (2.6億円)
5歳以上 15歳未満	71.9億円 (+3.5億円)	44 アレルギー用薬 (26.2億円)	11 中枢神経系用薬 (23.1億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.5億円)
15歳以上 65歳未満	1,306億円 (+42億円)	11 中枢神経系用薬 (276億円)	39 その他の代謝性 医薬品(252億円)	21 循環器官用薬 (187億円)
65歳以上 75歳未満	889億円 (+39億円)	39 その他の代謝性 医薬品(195億円)	21 循環器官用薬 (169億円)	42 腫瘍用薬 (139億円)
75歳以上	1,389億円 (+26億円)	21 循環器官用薬 (255億円)	39 その他の代謝性 医薬品(214億円)	11 中枢神経系用薬 (182億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,665円（伸び率▲0.5%）で、最も高かったのは高知県（11,588円（伸び率+1.2%））、最も低かったのは佐賀県（8,103円（伸び率▲0.1%））であった。
- また、伸び率が最も高かったのは広島県（伸び率+1.2%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率▲4.1%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	81.7 %	+0.8 %
薬剤料ベース	19.9 %	▲0.2 %
後発品調剤率	78.1 %	+2.2 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.3 %	+1.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.1 %	+26.4 % (0歳以上 5歳未満)	▲4.6 % (75歳以上 80歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	29.2 % (100歳以上)	10.3 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.7 %	86.5 % (100歳以上)	74.0 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	786 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (237 億円)	11 中枢神経系用薬 (139 億円)	23 消化器官用薬 (99 億円)
0歳以上 5歳未満	6.1 億円 (+1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (3.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	61 抗生物質製剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	12.0 億円 (▲0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (7.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1 億円)
15歳以上 65歳未満	261 億円 (+3 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	23 消化器官用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	191 億円 (+3 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)
75歳以上	316 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (97 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,418 円	1,822 円(北海道)	1,192 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.0%	▲1.1 % (高知県)	▲4.7 % (鳥取県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.7 %	89.2 % (沖縄県)	78.3 % (東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	23.8 % (鹿児島県)	16.9 % (京都府)
後発医薬品調剤率	78.1 %	84.3 % (沖縄県)	73.7 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.3 %	66.9 % (沖縄県)	55.3 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年8月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。